

白井病院 パーキンソン病ニュースレター

皆様いかがお過ごしでしょうか。ようやく緊急事態宣言は解除となりましたが、買い物や外出など何をどこまで自粛を解除していいのかまだまだ迷いますね。私は人の少ない時間に公園に出かけ気分転換をしています。色とりどりの花や草木の緑、海の青さを見ているときが心安らぐ時間です。

今回は当院脳神経内科部長の奥村医師より「パーキンソン病の治療目標」についてお話をさせていただきます。「病気との付き合い方」「お薬の考え方」について参考にしていただければと思います。

(作業療法士 志賀和未)



マリーゴールドの花言葉は「逆境を乗り越えて生きる」「健康」です。

パーキンソンの集い・マリーゴールドの動画を6月5日に配信いたします！ ぜひホームページよりご覧ください♡



「パーキンソン病の治療目標」

ある医療関係者から、パーキンソン病の治療目標ってどこにありますか？と質問されました。今までこの手の質問に対して私は、自己評価で8割程度の満足度を目指すと答えてきました。その事について今回説明させていただきます。

ジスキネジア（体が勝手にぐねぐね動く状態）、wearing-off 症状・on-off症状（薬の効果が不安定となる状態）等をパーキンソン病の運動合併症といいます。その運動合併症がみられない初期と運動合併症がみられる進行期とに分けて説明します。

初期のパーキンソン症状は、どのパーキンソン病薬を使っても良くなります。そのため、ハネムーン期とも呼ばれます。ここで自己評価の10割を目標としてしまうと段々薬の量が増えてしまい、進行が速くなり運動合併症が早めに来てしまう結果となります。そのため、自分の考えで薬の飲み方を変えたり、増薬することは長い将来を見据えた場合、良くありません。

専門医はハネムーン期の期間をどれだけ延ばせるかを考えて薬の調整をしています。自己評価の8割というのはそこから考え出された目安で、患者さんには少し我慢して貰う状態となります。薬を増やしたくないと言って自己評価の5割程度で我慢する必要は全くありませんし、それで進行が遅くなる訳ではありません。逆にもう少し動けるようになりたいと主治医と相談するのは良いのですが、客観的に見て8割以上であるにもかかわらず、全然効いていないといわれる患者さんもいるので、その時は患者さんと主治医とでお互いに話し合う事になります。

進行期の治療目標も基本的には自己評価の8割ですが、運動合併症があったり、幻視や認知機能の低下等があるために、増薬出来ないことがあります。そのため、色々な作用機序の異なる薬を使って、できる限りパーキンソンの患者さんやその家族さんに納得して貰える様な治療を専門医は目指しています。

現在新型コロナウイルスのため、自宅・施設に閉じこもられたり、リハビリが充分出来ない状態等の活動自粛で苦労されているかと思いますが、もう暫く力を合わせて頑張りましょう。



脳神経内科部長
奥村一哉 医師

趣味：読書

ネットサーフィン

好きな言葉：

敬天愛人、面白半分

～BARBEE BOYS“負けるもんか”を聴きながら～



医療法人 白卯会 〒590-0503

白井病院

HP www.shiraihp.or.jp

大阪府泉南市新家2776番地

☎072-482-2011

ホームページ
QRコード

